

食材の調達基準案を踏まえた水産物に係る対応について

平成28年12月12日

資料5

農林水産省

調達基準への対応（水産物）

【現状】

資源管理計画・漁場改善計画に基づき持続可能性に配慮して行われている水産業が大宗

（課題）

- ・ 水産エコラベル認証に対する関心が低い
- ・ 海外市場に向けて国内水産業の持続可能性を客観的に証明する手段がない

東京大会に向けた取組

輸出拡大

【2020東京大会時】

- ・ 国際標準化されたMEL等の我が国発の水産エコラベル認証水産物が一定程度普及

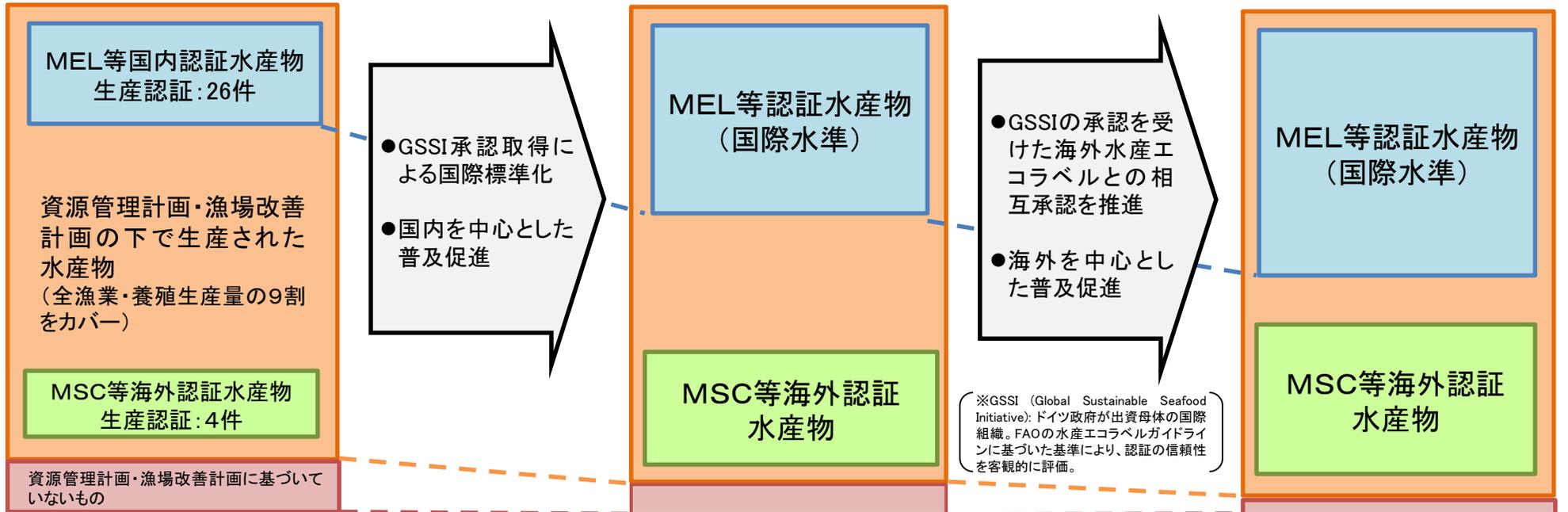
- ・ 国産水産物の東京大会への供給

更なる推進

輸出拡大

【レガシー】

- ・ 水産物輸出力の強化
- ・ 我が国発の水産エコラベル認証の国際化



○ 我が国の事業者にとって言語やコストなどの面で取り組みやすく、かつ、国際取引にも対応できる水産エコラベル認証制度が求められていることから、日本発水産エコラベル認証の国際標準化を推進するとともに、認証の取得を推進し、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、国産水産物の消費拡大と輸出力の強化を促進する。

現状

MELジャパン



<利点>

- 言語やコストの面で取り組みやすい
- 多様な魚種と漁業形態を有する我が国の資源管理の取組を十分反映している

<問題点>

- 国際的な認知度が低く、国際的な取引の場では活用されていない

<MELジャパン概要>

一般社団法人マリン・エコラベル・ジャパン協議会が運営(平成19年設立、平成28年一般社団法人化)。我が国の資源管理の取組を踏まえた認証制度。

- 国内認証数(海外認証実績はない)
 漁業認証: 24件
 加工流通認証: 52件
- 認証取得にかかる経費
 漁業認証取得費用: 約100万円
 加工流通認証取得費用: 約30万円

国際標準化

我が国発の水産エコラベル認証による輸出力強化

新・MELジャパン



認証の目指す姿

- 今までの利点を維持
 - 言語やコストの面で取り組みやすい認証
 - 多様な魚種と漁業形態を有する我が国の資源管理の取組に対応した認証
- 国際取引にも対応
 - 国際的な認知度向上により、国際取引においても活用される認証
 - 我が国と似通った漁業形態を有するアジアなどの国・地域にも適用できる認証

最新の科学情報の活用

資源情報提供体制の構築

- あらゆる利用者にとって一目でわかる資源情報の提供
- 最新の科学情報のデータベース化

認証取得支援

認証製品の輸出

資源情報の発信

東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、国産水産物の消費拡大と輸出力強化に寄与

世界市場

世界的な水産物需要の高まり

※本事業は 部分の事業内容を補助